流 —ru—

伊東 柚月　五行歌集

◇五行歌五則◇

一、五行歌は、和歌と古代歌謡に基いて
　新たに創られた新形式の短詩である。
一、作品は五行からなる。例外として、
　四行、六行のものも稀に認める。
一、一行は一句を意味する。改行は言葉の区切り、
　または息の区切りで行う。
一、字数に制約は設けないが、作品に詩歌らしい
　感じをもたせること。
一、内容などには制約をもうけない。

紅い紅い刻は
川べりを歩こう
ぬうたりと
からだを空っぽにして
哀しいうた歌って

アゲハ蝶
ふわりふわりと
海を渡ってゆく
あなた一人足りないままの
夏を巻きとるように

帰っておいでよ
失敗抱えて
昔みたいに
一緒にハモろう
マリノアの海に出て

あなたの
蒼い水源に
出会った気がする
謐で
凛とした手紙の向こう

身体の
奥で
さざ波が立つ
そのハスキーボイスが
いけないのよ

ゆるいゆるい
ハグなのに
包み込まれて
私は
少しもこぼれない

何かを失くしても
花びらなのか
慈雨なのか
すき間を埋めるもの
降る道にいる

藍と茜と薄墨色の
溶け合うところ
空の果てまで
流れ　流れて
わたしはブルース

辿れば
来し方の足跡は
道になる
ただひとつの
旋律のようにうねって

ひこうき雲が
ひとすじ
張りつめた青を分けても
空はまた
出会ってゆく

これまで詠んだ歌の中から
水や流れを連想させるものを集めました。
10/1～10/6、福岡市美術館にて
五行歌作品展も開催されます。
ぜひお立ち寄りください。

【　五行歌集　流 —ru—　　】
著　者 ： 伊東柚月
発行所 ： 九州五行歌会
発行日 ： 令和元年8月11日
連絡先 ： kyushu5uta@yahoo.co.jp